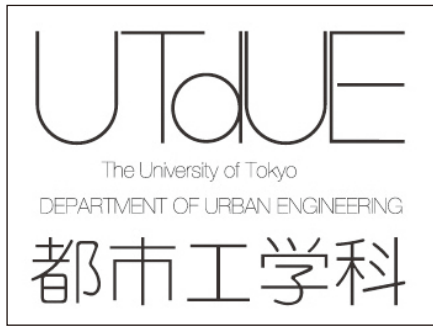




Department of Urban
東京大学大学院

東京大学

Engineering, the University of Tokyo

工学系研究科

都市工学専攻

工学部

都市工学科

Urban Planning Course

都市計画コース

Urban Environmental Engineering Course

都市環境工学コース

都市工学科の沿革と特色

都市工学科は、現代の社会的要請に応えるために設立された工学部の中では新しい学科です。都市問題及び環境問題の重要性が広く一般に認識され、1962年に学科が発足し、1966年に第1回卒業生を送りました。また、1966年には大学院修士課程が、1968年には博士課程が開設され今日に至っています。この間約2000名の卒業生を送りだし、多くは、省庁、自治体、独立行政法人、建設、不動産、商社、金融、保険、製造業、コンサルタント等多様な分野で専門を活かしながら活躍しています。大学院に進学する学生も多く、学部卒業生と同様の分野の他、大学や研究所等で活躍しています。自治体の首長や助役として活躍する卒業生が増えつつあることも近年の特徴です。

都市工学科には、都市計画コースと都市環境工学コースとがあり、それぞれが環境問題や都市問題を解明するための専門的カリキュラムを組んでいます。都市工学科設立の目的は、都市のフィジカルプランナー(すなわち物的・空間的存在によって形成される諸環境の計画とデザインを行う者)の教育・養成、ならびに都市問題に対処する工学的研究・教育にあり、その対象領域は都市を中心としながらも、都市的生活領域の拡大や全地球的都市化にともない、農山漁村を含む地方圏や国土全体、さらには地球環境全体におよびます。また、工学技術にその基盤を置くことは当然ですが、工学部の中では、法学、経済学、社会学、歴史学、心理学、美学、哲学など社会科学・人文科学と密接な関係にある専門分野です。

都市工学科の学習課程

■学習の特性

本学科は、都市計画コースと都市環境工学コースで構成されています。両コースともに、国土や地方圏、都市全体、都市を構成する地区、さらには各種都市施設などを対象とした調査・分析、計画立案、設計・実現の各局面において能力を発揮できるような専門家を養成することを目的としています。このような学科の性格から、当学科のカリキュラムは午後の多くの時間をさいて、演習と実験に充てています。当学科は、学生が、これらの時間を有意義に用いることを通じて、単に与えられた課題を解くのではなく、自らの観点から都市を眺め、課題を発見し、これに対処する能力を開発することを期待しています。

■カリキュラムの特徴

都市計画と都市環境工学の専門的領域と都市工学的な課題全般をカバーしています。都市問題の多様化に対応し、都市とその環境を中心に、国土全体から農山漁村を含む地方圏まで、土地利用、交通、空間、防災、地球環境、水環境、廃棄物などの分野で、調査・解析、計画、都市デザイン、手法、技術について幅広い授業を行っています。

演習中心のカリキュラムで現実の課題に取り組み、自らの考えで都市を捉え構想する力を養います。知識、体験、計画・デザインの基本スキルを獲得し、新しい問題に対応できる豊かな発想を育成します。

また、都市工学は経済、法律、社会、歴史など社会人文科学とも密接な関係にあるため、必修科目の設定を最低限にして、他学部聴講も含め学生の関心や意欲に沿った柔軟な履修を可能としています。

■都市工学科の国際的活動

都市工学科は、社会とのつながりを重視し、社会に貢献する学術を大切に育成・発展させるとともに、学術分野での世界最高峰を目指しています。教員・学生ともに諸外国をフィールドとした研究を進めており、卒論のために数か月外国に滞在して研究を行う学生も少なくありません。1999年度からは外国人の教員も学科に加わっています。また、大学院における留学生教育に力を注いでいるのも都市工学科の特徴です。特に博士課程においては全大学院生の約半数が留学生によって占められ、また研究生として滞在している留学生も多いです。出身国はさまざまで、東アジア、東南アジア各国はもちろん、中東、ヨーロッパ、北米、南米などに広がっています。これらの留学生に対しては英語による講義と研究指導が行われています。

都市計画の分野では、人の暮らしをより豊かなものにするための方法や技術を研究、開発、提案、実践しています。特にアジアの各国との学術交流として、Asian Planning Schools Association は1991年に都市工学科の呼びかけにより初めての会議がもたれ、その後、二年に一度、各国で国際シンポジウムを継続して開催しています。また、国際学会への参加、国際会議での招待講演も行っています。都市環境工学の分野では、人の健康保護と生活環境や地球環境の保全に関連する技術開発や実態調査・現象解明、社会システムの立案や評価、人材育成や教育手法の開発など、多岐にわたって国際的な連携を進めています。2003年より東南アジア水環境国際シンポジウムを東南アジア各国で主催し、その成果は“Southeast Asian Water Environment”シリーズとして出版されています。



ブッダ生誕地ルンビニの都市計画改訂調査(ネパール)



メダンにおける公衆衛生調査(インドネシア)

大学院：都市工学専攻

都市工学に関する体系的な知識とその応用技術を身につけ、都市計画、都市デザイン、都市交通計画、都市解析、環境デザイン、都市環境工学、都市水システム、国際都市環境、都市マネジメントなどに関する専門家として活躍できる人材を育成し、地域の気候風土・社会文化の多様性を踏まえ、グローバルな視点から国土及び地域社会の健全な発展に貢献することを教育研究上の目的としています。

東大まちづくり大学院

工学系研究科 都市工学専攻
都市持続再生学コース 社会人向け修士課程

社会人向けの大学院修士課程で、東京大学大学院工学系研究科の都市工学専攻、社会基盤学専攻、建築学専攻の3専攻がサポートします。まちづくりに関連する広い分野の実務経験者を対象に、総合的な教育を行い、まちづくりの現場において中心となって活躍する高度な知識を持った専門家を養成することを目的としており、国内に類例のないプログラムです。

です。都市を支える「都
」と分野統合の「総合
市」を考え、皆でつくり
「チャリスト」から社会の

アの環境課題とリーダー
管理適正技術論 / 環境工
論 / 環境工学特別演習 /
プロセス設計 / 環境生態
境微生物工学特論 / 環境
レド演習 / 環境マネジメ
健康関連微生物特論 / 固
リサイクルシステム / 水
地球及び都市環境マネジ
/ 都市水害とリスク管理
特論 / 物理化学処理特論
境管理技術特論 / 水環境

更に専門的かつ独自の
必修科目にとらわれる
専攻の科目を受講する
目標に応じたプランで

都市工学特別実習 /

計画特論 / 住環境特論 /

都市を支える

数理モデル / 自然現象と都市活動のモデル化
汚濁解析 / 環境インフラの計画・設計
リスク評価 / 環境政策
環境アセスメント / 生態影響評価

都市環境改善効果 / 水処理装置の運転
大気・土壌汚染調査 / 河川の実態把握
環境汚染物質の排出インベントリ
環境分析技術



- 認識力
- 問題を的確に捉える
- 分析力
- 環境を分析・評価する
- 着想力
- 知識を応用し新技術を開発する
- 提示力
- 情報を正しく適切に伝える

アジア都市環境保健学 / アジアの環境課題とリーダーシップ / 環境解析特論 / 環境管理適正技術論 / 環境工学研究 / 環境工学実験演習特論 / 環境工学特別演習 / 環境水質工学特論 / 環境制御プロセス設計 / 環境生態毒性学 / 環境反応速度論 / 環境微生物工学特論 / 環境微生物生態解析 / 環境フィールド演習 / 環境マネジメント論 / 環境リスク制御論 / 健康関連微生物特論 / 固形廃棄物管理 / 循環型社会とリサイクルシステム / 水質汚濁制御基礎 / 水道特論 / 地球及び都市環境マネジメント / 都市環境と物質代謝 / 都市水害とリスク管理 / 都市水システム / 排水処理特論 / 物理化学処理特論 / 膜技術による水処理 / 水環境管理技術特論 / 水環境特論 / 有害物質管理論

研究プロポーザル作成技法 / 都市工学特別実習 /
都市工学特別輪講

空間計画理論 / 国土及び地方計画特論 / 住環境特論 / 地域安全システム学 / 地域計画論 / 地域政策論 / 都市解析特論 / 都市居住特論 / 都市空間論 / 都市計画研究 / 都市計画特別演習 / 都市計画特論 / 都市計画論 / 都市工学特論 / 都市交通計画特論 / 都市交通計画分析特論 / 都市交通政策特論 / 都市住宅特論 / 都市設計特論 / 都市プロジェクト演習 / 都市防災特論 / 途上国都市計画論 / 復興デザイン学 / 復興デザイン研究コロキウム / 復興デザインスタジオ / 緑地計画特論

※講義、演習は今後変更される可能性があります。

分野別の
専門講義

卒業研究

**大学院工学系研究科
都市工学専攻**

都市計画研究室
都市デザイン研究室
住宅・都市解析研究室
都市情報・安全システム研究室
国際都市計画・地域計画研究室
都市交通研究室
環境デザイン研究室
空間デザイン研究室
コミュニティ・デザイン・マネジメント研究室
地域デザイン研究室

認識力
まちを調べる
分析力
まちを分析・評価する
構想力
都市の将来を構想する
創造力
空間をデザインする

都市を構想する

建築、街区から都市、そして広域へ
多様なスケールに対応する計画技法

建 築 2A 心地よい都市空間

街 区 2A 都市設計の基礎 3S 地区開発計画

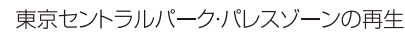
地 区 2A 都市解析の基礎 3S 地区の実態認識と評価

4S 地区の計画

都 市 2A 都市図の理解 3A 都市圏の計画 II

広 域 3A 都市圏の計画 I

学生生活



都市計画コースでは、時代とともに変化する都市の状況と課題に対応して、工学技術にその基盤を置きつつ、社会科学・人文科学の研究アプローチも援用しながら、多角的観点から研究を進めています。都市や都市を取り巻く農山漁村を含め、人間が生きて生活空間を、どう作り、維持管理・改善していくのか。国土全体としての空間や都市そのものに関わる問題を幅広い視点で総合的に研究します。

都市形成の仕組みや都市空間デザイン、自然との共生に関わる環境デザイン、広域圏の大規模な計画から都市・地区レベルでの計画立案手法、都市の安全に関わる計画・対策、住宅問題・住宅政策、都市交通計画、都市空間に関わる人間行動の解析手法などを講義や演習を通じて理解します。

■都市計画研究室

人口減少・超高齢社会への適応、環境負荷の低減、防災・減災といった課題に、都市や都市を超えて広がる生活空間の形成と維持管理を通じて取り組む方法を探究しています。都市の空間像の構想と実現方策の検討、土地利用・都市形態の変容過程とそれへの効果的介入、産官民協働の都市形成管理手法、これらに必要な都市情報の収集・処理・表現方法等が主な関心領域です。

■都市デザイン研究室

都市空間の意図を読み解き、持続的な魅力ある暮らしの場を実現する「研究」と「実践」に取り組んでいます。「研究」では、各自が自分のテーマを選びます。「実践」では、日本の大都市から海外の小さな集落まで、様々な地域社会の住民や自治体の方々と協働しながら、綿密な調査をふまえた実験や提案をします。「研究」と「実践」の深い呼応が重要だと考えています。

■住宅・都市解析研究室

都市居住と都市解析を研究の2つの柱としながら、都市計画全体を見渡した広範な研究を手がけています。住宅地のフィジカルプランニング、居住環境の定量的評価、住宅問題における経済的及び法制度的側面の検討、都市施設の適正配置、土地利用変化の評価と予測、GISによる都市計画立案支援、人間の空間認知と行動、居住に関わる心理、都市景観評価等、様々な研究を通じて、今後の望ましい都市像を考えています。

■都市情報・安全システム研究室

当研究室では生産技術研究所・加藤研究室とも連携し、安全・安心という視点から望ましい都市・地域を創るための研究を行っています。

社会調査、数理的手法、合意形成・情報技術など研究に役立つ方法論をすべて使いつつ、隠された都市のリスクを探し、「よい」都市の理想像を考え、人間の行動をよく知った上で、望ましい都市を実現するための仕組みを提案しています。

■国際都市計画・地域計画研究室

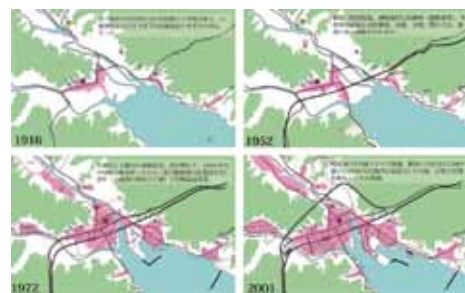
国際都市計画・地域計画研究室では、計画制度・計画課題等の実証分析、アジア等の発展途上国大都市における都市化過程の制御と整備手法に関する研究、エネルギー消費の削減モデル等環境問題の研究、人口減少および都市縮小局面のプランニング、その他幅広い切り口から、都市に関連する研究を総合的かつ実証的に行っています。



■自治体の土地利用計画の検討



■インフィル型アーバンビレッジの形成



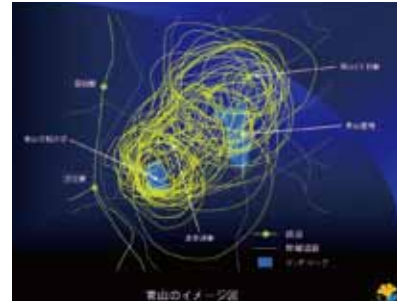
■未来を構想するために、まちの歴史の変容を理解する



■被災した町家で震災前の記憶をおたし、都市空間に活かすべき本質を探索する



■住民による住環境点検の支援



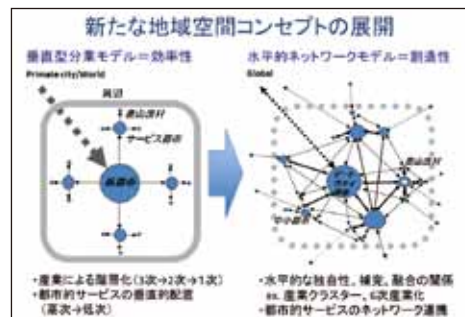
■人間の頭の中の地図



■災害調査



■大都市災害時の避難シミュレーション



■新たな地域空間コンセプトの提案



■インドの農村集落におけるNGO活動の調査

■都市交通研究室

都市における交通とその計画について研究しています。特に、時代の要請に応えつつ人の生活をよりよく支える都市と交通の姿を探求し、その実現へ貢献することに重点を置いています。人の活動と行動をより深く理解する調査・分析手法、価値創造型の交通まちづくり、持続可能な都市を目指した土地利用・交通戦略と計画制度、新しいモビリティの可能性などがテーマです。

■環境デザイン研究室

ルビンの壺というだまし絵がある。図として描かれているのは壺だが、地に注目すると、二人の人物が向き合っているように見える、あの絵だ。人口減少や超高齢化、経済停滞のなかで、今、都市が大きく様変わりしつつある。従来の都市計画が「図」を描くことに専心してきたとすれば、これからの都市計画は「地」をいかに描くかに腐心しなければならないのかもしれない。環境デザイン研は、みどりや環境を切り口に、「地」のデザインを考える。

■空間デザイン研究室

サステナブルな都市づくりの観点から、様々なスケールの空間のデザインに関わる研究と実践を進めています。特にコンパクトシティやエリアマネジメントに関する研究や、高密度なアジアの都市空間デザインに関する研究を進め、アジア都市の魅力と可能性を「Asian Urbanism」として提唱しています。また、柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）の活動の中心的役割を担いながら、実践活動も推進しています。

■コミュニティ・デザイン・マネジメント研究室

自らコミュニティ再生やまちづくりに関わるプロジェクトをコーディネートしながら、実践研究を積み重ねています。コミュニティや「まち」の再生をめざした、デザイン、プランニングそしてマネジメントの、方法論や手法、それらを支える基礎理論について、さまざまなアプローチから探求し、実際のコミュニティ再生プロジェクトやまちづくりへの応用を進めています。

■地域デザイン研究室

暮らしは、多様な領域が複合した範囲である「地域」と呼応して、営まれています。地形や歴史を読み解き、突発性／進行性リスクへの対応の必然性を深く認識し、関係性の中で「地域」を理解し構想するという実践。それを支える論理。両者の往還の中で、有益な研究を生み出し、地域に還元します。



■公共交通指向型の土地利用・交通戦略（ブラジル・クリチバ市）



■まちなかの回遊性を高める交通システム（富山市）



■都市郊外部の「図」と「地」



■空閑地を活用したコミュニティガーデン（柏市カシノワ）



■福岡市におけるコンパクトシティの提案



■公・民・学連携のまちづくり拠点UDCK



■被災地でのコミュニティスペースの創出とマネジメント



■郊外住宅地での新しいまちづくりプロジェクト創発の支援



■原発被災地にて、協働の拠点、小高復興デザインセンター設立



■渋谷ヒカリエ「まちてん」出展・交流・議論

研究室紹介 都市環境工学コース

都市環境工学とは、安全かつ快適な都市環境あるいは生活環境を将来、世代を超えて創造していくために、適切な工学技術を開発して、それをどのように展開すべきかを提案する学問です。大量生産・大量消費の20世紀工業化社会の次に来る時代を担う統合型の工学体系です。その研究領域は、バイオテクノロジーから水供給システムや廃水・廃棄物処理システムなどの都市基盤を支えるシステム、さらには温暖化に代表される地球環境問題など多岐にわたります。

■環境システム研究室

持続可能な社会の実現のための施策の提案にあたっては、汚染物質の動態把握や処理技術に代表される工学的アプローチが重要となる一方、施策提案を受け入れる市民がどのような態度を形成し行動にまで移すのか、といった側面をも考慮することが重要であり、多面的な環境改善施策の評価が必要となってきます。環境システム研究室では、人間活動の様々な側面を取り上げ、工学的な視点や手法の適用に留まらず、社会学、経済学との融合を図り、持続可能な社会を形成していくための礎となる研究を進めています。



■タイにおける気候変動に伴う洪水予測および被害軽減施策の提案



■環境配慮行動を規定する心理因子の解析と環境教育の実践

■都市水システム研究室

都市水システム研究室では、人口減少社会においても、都市の水インフラの資産マネジメントをつうじて適切な施設の更新を促し、将来にわたって安全・安心な水を安定して供給するための研究に取り組んでいます。また、新しい水処理技術の開発や、気候変動による都市水システムの脆弱性評価など、都市の水問題の解決に向けた研究を推進しています。さらに国内および海外の水供給に問題を抱える地域においては、水質調査や水利用状況の調査などの現地調査にも積極的に取り組んでいます。



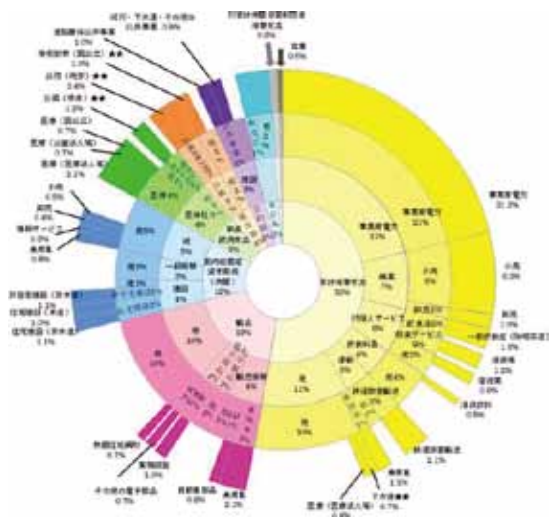
■タイ・チェンマイでの水利用調査



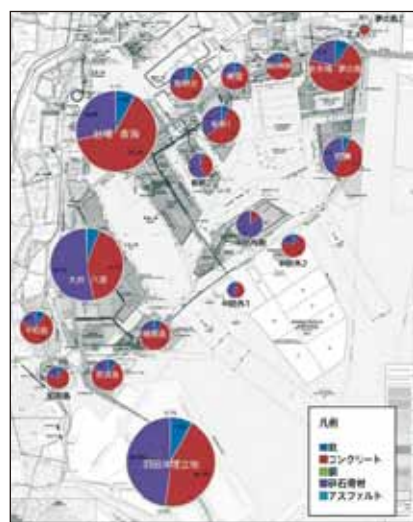
■小笠原村での水質調査

■都市資源管理研究室

今日の環境問題では、都市に住む人々の健康や生活環境への影響だけではなく、都市と地球規模の環境問題とのかかわりを含めた、より広い視野が必要とされます。こうした社会的要請に科学的に貢献するために、「物質フロー・ストック分析」や「産業連関分析」「ライフサイクル評価」といった手法を使って、東日本大震災にともなう災害廃棄物処理といった喫緊の課題やPETボトルのリサイクルのような身近な課題から、日本の生産・消費全体での資源・エネルギー需要や環境負荷発生との構造分析まで、幅広い環境問題にアプローチしています。



■サプライチェーンの電力消費の構造分析



■東京臨海地域の物質ストック分析

■水環境制御研究室

水環境制御研究室では、都市水環境の制御に関わる多様かつ複合的な課題の解決に取り組んでいます。個々の問題は相互に関連しており、水道や下水道という人工的な水循環系との関わりがなかで水利用や水環境を総合的に捉えることが重要です。研究項目は、(1)都市における雨天時汚濁流出と水循環の解析、(2)水源や都市水環境における病原微生物の挙動解析と制御、(3)土壌・地下水のバイオレメディエーション、(4)上・下水の生物学的な水処理プロセスにおける微生物群集と機能の解析、など多岐にわたっており、多角的な視点で研究する能力を醸成することを目指しています。



■東京湾における雨天時汚濁流出の影響調査



■都市水環境・水利用の制御

■環境質リスク管理研究室

人間活動に起因する環境質(水質、大気質、土壌質)の劣化がもたらす様々なリスクを総合的に管理するためには、全体を俯瞰して把握する総合化能力とともに、リスクを正しく評価し、リスクを合理的に低減する技術開発が必須です。当研究室では、有害化学物質の無害化処理技術の開発、汚染土壌・底質の生態影響評価と浄化技術開発、固形廃棄物の統合的管理システムの評価とエネルギー回収技術開発などに取り組んでいます。また、大規模な都市下水処理場のコンパクト化や、分散型の小規模施設における排水と廃棄物の同時処理とエネルギー回収の実現などに寄与する次世代メンブレンバイオリアクターの開発を進めています。



■次世代メンブレンバイオリアクターの開発



■底質汚染物質の分析と底生生物への影響評価

■都市サステナビリティ学研究室

この研究室は都市のサステナビリティを研究することを大きな目的としています。個人、都市、地域、地球などの様々なスケールを考え、実際の問題解決に資するような実践的な研究を行っています。そして、最終的には自然と共生する社会を構築することによって、持続可能性を実現し、人間の福利を向上させることを目指します。



■中国天津市におけるフルスケールの土壌微生物を活用した下水処理システム



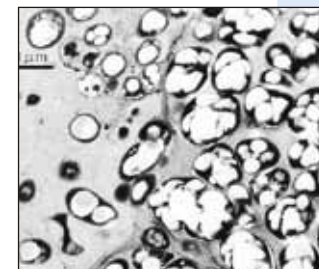
■サステナブルな地域開発と気候変動適応研究(バリ島)

■環境微生物機能研究室

当研究室は組織上は新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻に所属し、柏キャンパスにあります。ポリン酸蓄積細菌など有用な機能を持つ微生物の働きを活かし、下水処理の性能向上や水環境の改善に結びつけようという方向の研究に端を発し、有機物貯蔵能力を有する微生物を用いた下水処理の最適化や下水管内での下水浄化といった処理プロセスの研究、社会の持続可能性との関係からサステナビリティ教育や技術システムの持続可能性の評価といったマクロな方向への展開、また逆に、次世代シーケンサーを用いて環境浄化に関わる微生物生態系についての解析といった顕微鏡レベル、分子レベルの研究を行っています。



■環境・サステナビリティ教育(水保調査)



■活性汚泥中の細菌が蓄えたPHA(細胞内の白く見える顆粒がPHA)

教員紹介 都市計画コース

Urban Planning Course



浅見 泰司 教授

空間情報解析
都市計画
都市住宅学



飯田 晶子 助教

緑地環境計画
ランドスケープデザイン
文化的景観保全



薄井 宏行 特任助教

都市解析
空間解析
地理情報システム
住環境



大方 潤一郎 教授

持続可能な都市地域空間の形成手法
日本の空間計画体制の抜本的再編
高齢化社会対応のまちづくり
311以後の仮設・復興まちづくり



浅見 真理 教授

環境リスク管理
水道工学



小熊 久美子 准教授

浄水技術
水供給システム
環境衛生工学



小貫 元治 准教授

サステナビリティ学
人口減少社会とインフラ
防災、技術と社会
サステナビリティ教育



春日 郁朗 講師

生物学的水処理
高度浄水処理
環境微生物工学



加藤 孝明 准教授

地域安全システム学
減災・復興まちづくり
自然災害リスク評価
計画支援システム



城所 哲夫 准教授

アジア都市計画
空間ガバナンス
エコカルチュラルネットワーク



窪田 亜矢 特任教授

地域デザイン
復興デザイン



小泉 秀樹 教授

コラボラティブ・プランニング
まちづくり論
コミュニティ・デザイン



片山 浩之 准教授

水質衛生工学
上水道工学
環境微生物工学



栗栖 聖 准教授

環境配慮行動
親水空間評価
住民意識
リスクコミュニケーション



栗栖 太 准教授

環境汚染の微生物浄化
廃水の再生利用
環境微生物の機能解析



酒井 宏治 特任助教

紫外線水処理
消毒副生成物
国際教育研究



後藤 智香子 特任助教

住環境まちづくり
コミュニティ・デザイン



貞広 幸雄 教授

都市解析
空間情報科学
地理情報システム



瀬田 史彦 准教授

人口減少局面の
国土・地域・都市政策



高見 淳史 准教授

都市交通計画
交通と土地利用の統合的計画



佐藤 弘泰 准教授

生物学的廃水処理
微生物生態系解析
省エネルギー型好気性下水処理



滝沢 智 教授

都市水システム
都市域の地下水管理
浄水技術



飛野 智宏 助教

環境微生物工学
生物学的排水処理
微生物群集解析



中島 典之 准教授

生態毒性学
都市雨水管理
環境水質化学



出口 敦 教授

都市開発
コンパクトシティ
エリアマネジメント



寺田 徹 特任講師

都市緑地計画
ランドスケープ計画
都市近郊林の保全と利用



トロンソ ジアンカルロス 助教

都市交通計画
交通行動分析
空間分析とデザイン



中島 伸 助教

都市デザイン
都市計画史
景観まちづくり



中谷 隼 助教

ライフサイクル評価
消費者行動分析
リサイクル



橋本 崇史 助教

浄水処理技術
アジア地域の水システム



花木 啓祐 教授

都市の環境の解析
物質フロー解析
温暖化対策



福士 謙介 教授

国際環境
健康リスク



中島 直人 准教授

都市デザイン
都市論
都市計画史



西村 幸夫 教授

都市デザイン
都市保全



原田 昇 教授

交通まちづくり
持続可能な都市構造
交通行動分析



榎野 公宏 准教授

居住セキュリティ
都市居住・住環境



古米 弘明 教授

都市雨水管理
下水道システム
水環境保全



味埜 俊 教授

サステナビリティ教育
社会の多様性とサステナビリティ
技術システムのサステナビリティ評価
排水処理プロセスのモデル化



森口 祐一 教授

物質フロー分析
ライフサイクルアセスメント
廃棄物処理・リサイクルシステム



山本 和夫 教授

メンブレンバイオリアクター
資源生産型水処理
環境質リスク低減技術



廣井 悠 准教授

都市防災
リスク工学



真鍋 陸太郎 助教

都市の情報
ICTとまちづくり
都市計画・まちづくりを伝える



村山 顕人 准教授

環境負荷低減・減災に向けた都市計画
計画策定技法



横張 真 教授

緑地環境計画
ランドスケープ計画
サステナビリティ

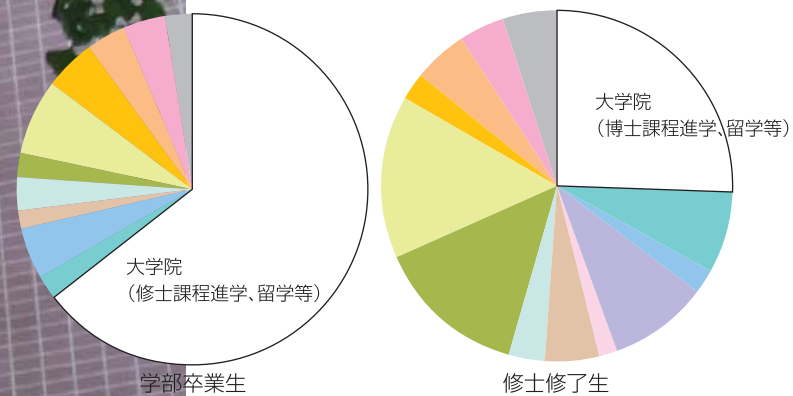


ロウワチャリン ジェニユック 特任助教

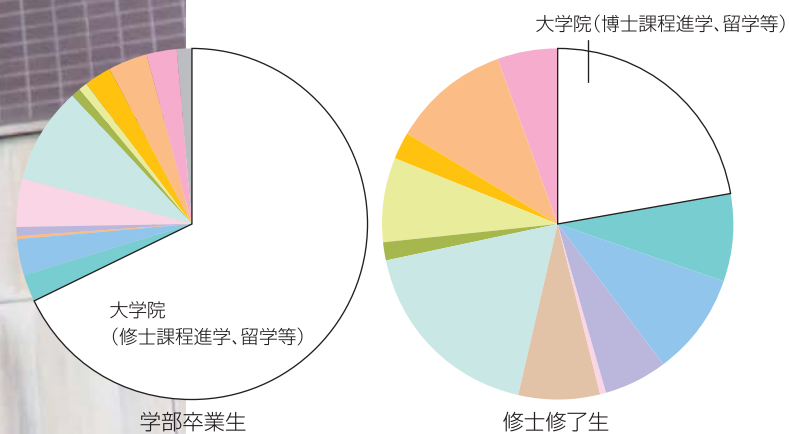
水化学
飲料水処理
ナノテク/ロジー利用水処理

教員紹介 都市環境工学コース

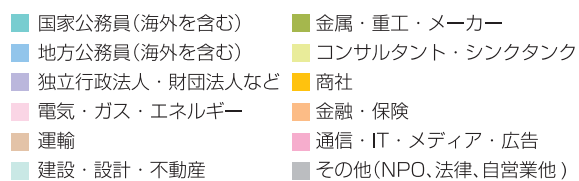
Urban Environmental Engineering Course



都市環境工学コース 卒業後の進路



都市計画コース 卒業後の進路



東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 東京大学工学部都市工学科

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
 TEL:03-5841-6216 FAX:03-5841-0370
www.due.t.u-tokyo.ac.jp